

令和7年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和8年2月27日作成

| 中期目標 | 重点努力目標（評価項目） | 自己評価 | 総合評価 | 達成状況と成果 | 関係者評価 | 学校関係者の意見・要望 | 今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて） |
|--|-------------------------------------|------|------|---|-------|--|--|
| 子どもに寄り添った学びを展開し、他者と関わり合いながら、確かな学力を育成する | 学ぶ意欲の向上 | A | B | <ul style="list-style-type: none"> 身近な出来事から湧き出た疑問をもとに授業展開を考えるように努めた。 子どもの学習意欲を喚起するための問題解決的な授業づくりの研修を行い、問題解決的な学習を意識して授業案づくりを行った。 「いなほトーク」をはじめ全教科で相手の顔を見て話す、聞くことを指導している。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 教師が子ども一人一人に丁寧にかかわっている。 話し合い活動では、コの字型の隊形で互いの顔を見て聞きやすく話しやすい配慮がなされている。 | <ul style="list-style-type: none"> 仲間と関わり合う中で、「できる・わかる」を実感ができる学びを積み重ねていく。 いなほトークの回数を増やし、いなほトークのめあてを学級の親和性の醸成だけでなく、内容を深める方法の習得にも重点を置いて実施していく。 |
| | 話し合う力の育成 | B | | | | | |
| 互いの立場を理解し、温かな気持ちで関わり合える集団づくりに取り組む | すすんであいさつができる子の育成 | A | A | <ul style="list-style-type: none"> 教師がいつでもどこでも何度でも元気な挨拶を子どもにすることで、校内で子どもたちが元気な挨拶をするようになってきた。 お互いの相違を認め合い尊重することの大切さに気づかせることで、温かい人間関係づくりに努めている。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 校門でのPTA挨拶運動の際、気持ちのよい挨拶をする子が少し増えたように思う。 通学路での旗当番時には、元気がよく挨拶をする子が少なく朝は元気が出ない様子だ。 挨拶の大切さを説き、あいさつ運動を推進してほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童会運営委員の活動を活発にし、挨拶について全校児童とともに考える。子ども同士が互いにあいさつをする心地よさを味わう手だてを検討し実践する。 職員と児童が多様性を認め合い、互いの立場を理解し合い、温かい関わり合いを醸成する。「みんなの約束」について考えることを通して、学校生活を互いに気持ちよく送ることができるようにしていく。 |
| | 相手と温かな気持ちで人と関わることでできる子の育成 | B | | | | | |
| いのちを大切に、心身ともに健康な身体づくりをしようとする意識を高める | 運動に親しみ、最後まで全力でがんばる子の育成 | A | A | <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは体育の授業だけでなく、休み時間に運動場で体を動かす中で、友達と一緒に体を使った遊びを楽しみ、進んで運動に取り組む姿が見られた。 また、体育の授業では「跳び箱強化月間」を設定し、補助運動や段階的な練習に取り組むことで、挑戦する意欲や達成感を高めることができた。 地震・火災・津波の避難訓練を実施し、子どもたちは状況に応じた安全な行動や避難の方法を理解することができた。 専門家を講師に招き、不審者対応訓練や心肺蘇生法の現職研修を教員対象に行い、緊急時の対応力や知識の充実を図った。 付き添い一斉下校や南桜校区0の日の朝の交通立ち番を実施することで、子どもたちの日常生活における安全意識も高まった。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 水泳指導の時間数が増えることよい。 子どもが家庭でも防災の備えを備えをする姿が見られるようになった。 子どもが家庭で避難訓練について会話をし意識を高めている様子が見られた。 | <ul style="list-style-type: none"> 休み時間の外遊びを引き続き推奨していく。 跳び箱強化月間のように体力向上の取り組みを検討し実践していく。 総合的な学習の学区内の防災への取り組みの学習を生かし、地震・津波火災避難訓練に取り入れていく。 不審者対応訓練は、教員だけでなく子どもにも身を守る手だてを考えさせ身につけさせていく。 |
| | 非常災害時や学校生活における判断力・行動力の育成 | A | | | | | |
| 子どもが笑顔で学校生活を送るために、地域や保護者とともに子どもを育てる教員集団を自覚する | 教職員の授業力向上と業務改善 | B | A | <ul style="list-style-type: none"> 授業記録をきちんと取り、それをもとに研究協議会を積み重ねた。 各教育活動担当の部会が今年度の反省をフィードバックし、今後の教育活動の立案をたて、より質の高い教育活動を目指す。 クラブ講師や生活科・総合的な学習などで地域教育ボランティアと関わる授業を展開し、環境教育やキャリア教育他に生かした。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 研修の成果が板書や掲示物やタブレットの活用などに生かされ、学習の定着につながっている。 地域の人材を有効活用してほしい。 少人数指導で授業内容が理解できるように配慮をしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 問題解決的な学習の力量向上のための教材研究を行う。 子どもが考えをより深めることができる話し合い活動の研修を行う。 地域教育ボランティアコーディネーターを活用し、より一層地域のかたに学習支援をお願いしたり、地域教材を学習に取り入れたりする。 |
| | 地域ぐるみの教育システムの活用 | A | | | | | |
| 南桜中学校区における小中一貫教育の推進に努める | めざす子ども像の共有と交流活動の推進 | B | B | <ul style="list-style-type: none"> 南桜中学校と連携して、6年生が南桜中学校を見学する機会を設け、中1ギャップを軽減する取り組みを行った。 地域に目を向けた環境保全、キャリア教育などに各教科をはじめ総合的な学習で取り組んだ。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 中学校入学へ向けて宿題の出し方を工夫していると感じた。 中学校と連携してほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> 南桜中学校区の職員が「めざす子ども像」を共有するために、意見を交換し同じ目的意識をもつ機会を設定し、これを意識した交流活動を行う。 植田校区の教育資源を生かした教育活動を行う。 |
| | 9か年を見通した教育課程の編成と持続可能な社会をめざしたSDGsの実践 | B | | | | | |

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】